

オリンピックの意味

東部中・1 岩原 謙臣

夏休みの朝、私はテレビをつけた。そこではちようどオリンピックの開会式の様子が映っていた。場所はパリ。セーヌ川からエッフェル塔までの道のりで開会式が行われるようだ。登場したのは元フランス代表のサッカー選手のジダンだ。ジダンは私でも知っている有名な選手だ。フランスではきっと国民的英雄なのだろう。そのジダン選手が聖火を持ってパリの街中を走っていた。パリの人たちにとっては見慣れた街の様子かもしれないが、私には、日本では見かけない雰囲気がとてもきれいでおしやれに見えた。きっと日本に旅行に来る外国人観光客もこんな気持ちなのかなと想像しながら見た。ジダン選手が地下鉄に乗ったが、電車が停まり、追いかけてきた子どもたちに聖火は託された。子どもたちは聖火を持ち、暗い地下道を進んでいくと顔を隠した怪しい男がボートに乗って現れた。子どもたちがその男のボートに乗ったところで映像は変わり、オリンピックに出場する選手たちが船に乗って登場した。

最初に登場した国は、オリンピック発祥の地であるギリシャだ。次に難民選手団が続き、その後はアルファベット順に登場した。日本は九十三番目だとアナウンサーが言っていた。日本選手団の登場を待っている間、さまざまな国の選手たちが船に乗って登場した。出場者が二人や三人と少なかったり、初めて聞く国もあったりした。選手たちの中には、その国の民族衣装を着てパレードする人たちもいて、世界には本当にたくさんのお国があるのだなと思った。アナウンスで各国の紹介がされるたびに、その国がどこにあるのか調べた。国旗も国によってさまざまであり、見ていてとてもおもしろかった。このオリンピックには、二百四の国と地域が参加しているそうだ。

人数は約一万人。日本の選手は四百九人で、過去最多の人数だ。開会式を見てみると母に、

「オリンピックは何の祭典か知っている？」

と聞かれた。私は、

「スポーツの祭典でしょ。」

と得意気と言った。これに対して母は、

「それはそうだけど。オリンピックが始まった理由を調べてみなよ。」

と言ってきた。私は何を言っているのだろうかと思いつつ調べてみた。すると、オリンピックとは、古代ギリシャで始まったことがわかった。長年戦争で苦しんでいた国の人々がオリンピックの間だけは戦いをやめてスポーツをしようとしたのが始まりだったのだ。オリンピックの始まりから今までの間に世界ではいくつもの戦争があったが、戦っている国の人々も平等にスポーツができるようオリンピックの出場権が与えられるそうだ。オリンピックの期間中は、選手としてみんなが平等に競技できることは、すばらしいと思った。

そんなことを考えているうちに日本選手団の船が登場した。大きな船の中で、たくさんのお国の選手たちが手を振っていた。日本選手は、他の参加者が少ない国と比べると、とても多く感じた。

選手の入場と同時にさまざまなショーも行われていた。歌手のレディー・ガガはピアノやダンスをして会場を盛り上げた。このダンスはパリ発祥のキャバレーをイメージしているようだ。アナウンサーが言っていた。他にもオペラやミュージカルがあったり、ノートルダム大聖堂やルーブル美術館など有名な建物が見えたり、パリの歴史を感じることもできた。開会式は終わりに近づき、聖火は最終走者にわたった。そして、気球に火がつき、空へと浮かんで行った。

開会式の中で、オリンピックのバツハ会長が

「私たちもオリンピックのアスリートたちのように、スポーツがもたらす喜びに感動しましょう。多様性に満ちた人類の一員として、

平和に生きるこのオリンピック精神を祝いましょう。」

と言っていた。私は、このスピーチの内容を少し難しく感じたけれど、オリンピックは平和の祭典だと言いたかったのではないかと解釈した。オリンピックの五つの輪は、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、南北アメリカ、オセアニアの五大陸の団結を意味している。どんな国の人であつても平等にスポーツを通して競うことができる今のオリンピックは、昔の人たちの思いを受け継いでいると思つた。

私は、この開会式を通して、オリンピックの起源を知ることができたり、世界には本当に多くの人々がいることを改めて感じたりした。世界中の人々には、それぞれ生きてきた国の歴史がある。そして、現在もお、戦いの中で平和を願う国もあると思う。世界中の人たちが平和に過ごす世の中であることを願っている。

また、日本のように練習環境が整っていない国もあるはずだが、努力してオリンピックに出場できるのは、本当に素晴らしいことだと感じる。日本は、暑い時期だとエアコンの効いた涼しい場所でごせるうえに、食べ物にも飲み物にも困ることは少ないと思う。世界には貧しく、食べ物も十分に手に入りにくかったり、学校にも行けなかったりする子どもたちがいる。どんな状況からでもオリンピックを目指して努力している人はいるはずだ。そのことを忘れず、そして今の環境を当たり前と思わず、感謝して生きていこうと思う。